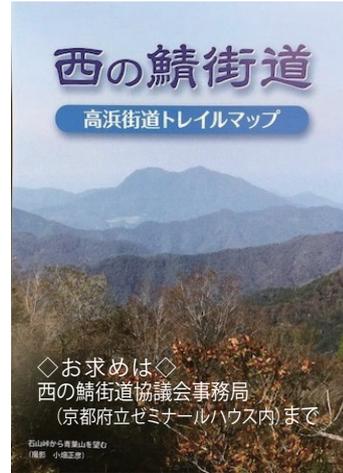


# トレイルマップ完成

藤野 満



御食国として都へ海の幸を運び、塩の産地、また対馬海流に乗った大陸文化の玄関口、太古から若狭と都を結ぶ道は発達していました。

「昔は能登の鯖とて名高かりしに、能登国には鯖すくなくなりて、本国の方へ魚道付けたり」(『稚狭考』TGT 板屋一助)すなわち鯖が多く捕れるようになった江戸時代中期以降多くの鯖が都や各地に運ばれ、「鯖街道」と呼ばれるようになりましたが、この街道名は戦後になって言い始められたようです。この街道は東海道などのような一本のものではなく、網の目のようにあちこちを結んでいました。

## ○高浜街道のルート地図を作成

その中でも小浜以西の街道を「西の鯖街道」と呼び、高浜・おおい・美山・京北で「西の鯖街道協議会」を結成し、沿線各地の町おこしをしようとする活動が始まりました。その一環として、この四市町

を結ぶ、鯖街道の主要ルートの一つ「高浜街道」を歩いて、その楽しさを味わっていただけるような地図を作りたいという長年の課題がありました。この春にその地図を作成することが出来ました。

街道歩きを楽しむには、その豊かな自然を楽しむ、沿線途中の歴史や諸文化を楽しむことにあるが、さてルートは？となると意外に難しいものです。

ゼミナールハウスでは長年「歩こう・学ぼう・西の鯖街道」をテーマにした講座を開催し、多くの参加者と共に様々な峠越え街道歩きや沿線の歴史文化を学んできました。その経験を活かして、

- ・できる限り古道に忠実に
- ・しかし植林などで消滅したルートはあきらめ
- ・また歩道のない車道は避けて

できるだけ安全に、歴史を体感してもらえ、街道歩きをして貰おう、という基本方針でルートを決めました。

長坂越・緑坂峠・茶呑峠・縄野坂・神楽坂・棚野坂・石山坂・福谷坂などの峠越えはほぼ古道が残っていますが、平地歩きは車道になり旧道を特定するのが難しい面があります。しかし、鷹峯の長坂口から今の京見峠の少し手前を越えて前坂へ、杉坂では地藏院前からユリ道を、佐々江峠から明日ヶ谷への谷筋の道、

静原では八幡宮前から市場の集落を通り、鶴ヶ岡ではバイパス沿いの山裾を通り諏訪神社へ、きぐすりやへも山裾を通り、口坂本ではR162から県道16号へ常英寺へショートカット、などが昔の道を再現したルートです。明治時代に作成された陸地測量部の地形図は大いに参考に

なりました。

24ページには途中の有名スポットの解説も入り、また詳細部分を拡大して分かりやすくしています。

## ○クラウド道コンモズの導入

この地図はこの紙媒体以外にもスマホ(iOS & Android)を活用してもらえます。12頁に説明されているように、

- ・Explorer for ArcGISをインストールし「西の鯖街道」の地図をダウンロードすることで、スマホ上に地図とルートが表示され、またGPS機能により現在位置も表示されます。この為予定されたルート上を正しく歩いているかが常に確認でき、道に迷うことなく安全に歩くことが出来ます。

さらにこのシステムの利点として、重要なポイントごとにマークを入れ、そこをタップすることでその箇所の案内が表示される機能があることです。紙媒体の

地図ではスペースに限りがありますが、理論上はいくらでも案内を載せることが出来ます。こういった文字や写真でのガイドに加え、回線が通じている区間では、動画によるガイドと連携することが出来るので、まるでガイドさんと一緒に歩いている様なものをつくる事ができます。

これらの機能は「クラウド道コンモズ」を提唱実践されている京都学園大学の原雄一教授により開発され、その指導の元、ゼミ生の平間元輝氏に実際のデジタル化の作業を担当していただきました。

今回のルート策定は小畑正彦と藤野満が担当し、事務局の渡部康子も交えて全体構想やガイドなどを作成しました。協議会では今後も、道標設置、道の補修、ガイド情報の充実を図り、より楽しい鯖街道歩きをしていただく為の活動を計画しています。より安全で楽しい街道歩きを楽しんでいただければ幸いです。

たいと思っています。



－ 写真の説明 －

スマホ画面をコピーしました。青い丸が現在位置で、ルートから離れて車道の京見峠へと向かっていることが分かります。すぐ引き返しましょう。

緑の丸をタップすると説明が表示されます。